

秋田県の対応の振り返りと課題



令和6年2月5日 秋田県生活環境部 環境整備課 調整・循環型社会推進チーム

目次

- 1 . 豪雨の状況について
- 2 . 県内の被害状況等について
- 3 . 振り返り
 - (1) 対応状況
 - (2) 円滑に対応できた点
- 4 . 課題
- 5 . 今後の方向性・対応について

1. 豪雨の状況について

梅雨前線が東北北部に停滞したことにより、7月14日から16日にかけて県内は広い範囲で大雨となり、総降水量は、多い所で400ミリを超え、解析雨量では局地的に約500ミリとなるなど**記録的な大雨**となり、藤里、男鹿、秋田、秋田市岩見三内、秋田市仁別、角館では、72時間降水量が観測史上1位を更新した。



7月15日 五城目町役場前



7月16日 秋田市東通地区（明田地下道）

2. 県内の被害状況等について

(1) 人的・建物被害

人的被害（人）					住家被害（棟）						非住家被害（棟）				
計	死者	行方不明者	重傷者	軽傷者	計	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	公共施設	計	その他		
													全壊	半壊	浸水
6	1		1	4	7,039	11	2,892	28	741	3,367	10	794	5		789

（令和5年12月26日現在）

(2) 災害廃棄物の発生状況等

災害廃棄物発生総量	災害廃棄物処理事業見込額	仮置場設置市町村
約14,264トン	約781百万円	秋田市、男鹿市、五城目町、三種町、八峰町

（令和5年12月11日現在）

3 . 振り返り

(1) 対応の状況

7月18日(火)から19日(水)にかけて、環境省職員等とともに現地調査を実施し、写真をはじめとした記録の整理や、仮置場設置に係る留意事項等について助言した。



7月18日 男鹿市仮置場
(総合運動公園駐車場)



7月19日 五城目町仮置場
(ストックヤード)



7月19日 八峰町仮置場

3 . 振り返り

(1) 対応の状況

秋田市に対し、「災害時における廃棄物の仮置場に関する協定」に基づき、県有地である旧秋田空港跡地（港湾空港課所管）を仮置場用地として提供した。

秋田市、五城目町、男鹿市及び能代市からの要請により、「大規模災害時における災害廃棄物の処理等に関する協定」に基づき、秋田県産業資源循環協会に対して協力を要請した。

秋田市に対し、県内市町村等の処理施設での受入可能量や収集運搬の応援可能人員・車両等の情報を提供した。

3 . 振り返り

(2) 円滑に対応できた点

災害時における廃棄物の仮置場に関する協定に基づき、秋田市から旧秋田空港跡地の借用を要請された際には港湾空港課に速やかに連絡し、同課において、即日で使用許可を発出するなど、県庁内の関係課との連絡が円滑に実施できた。

大規模災害時における災害廃棄物の処理等に関する協定を締結している秋田県産業資源循環協会とは、発災直後から連絡体制を確認し合い、市町村の要請に速やかに対応することができた。

4 . 課題

被災市町からの疑義照会や庁内外の関係機関との連絡調整等が発災後数日間に集中し、必要な情報整理が追いつかず、速やかに対応することができない場面があった。

市町村の課題としては次のような事項が挙げられた。

必要な情報の整理

被害の全容把握が遅れたほか、把握した情報に濃淡があったため、廃棄物発生量等の規模感がつかめないまま収集運搬を開始してしまい収集運搬業者等との調整に苦慮した市町があった。

4 . 課題

人員不足

担当者一人に作業が集中し、仮置場の運営や収集運搬等の初動における対応が場当たりの的にならざるを得なかった。

自己搬入できない住民への配慮

廃棄物の回収に当たり、仮置場に自ら搬入できない住民に対する配慮（戸別回収等）が必要。

5 . 今後の方向性・対応について

一部予算要求中につき変更となる可能性があります。

県職員及び市町村職員の初動対応力の向上を図るため、廃棄物発生量の推計や住民への周知、関係機関との連絡調整などを時系列に沿って学ぶタイムライン研修を担当課長及び職員を対象に実施するとともに、秋田県産業資源循環協会と連携して災害廃棄物の仮置場設置・運営に関する実地訓練を実施する。

今般の災害で顕在化した課題等に対応するため、市町村の検証結果も踏まえつつ戸別回収などの新たな要素も加えながら秋田県災害廃棄物処理計画を見直すとともに、各市町村における災害廃棄物処理計画の見直しを促す。